独立行政法人労働者健康福祉機構　千葉ろうさい病院広報誌

# Chiba Rosai News

## 千葉ろうさいニュース

Vol. 9
平成28年1月1日

脳神経外科・神経内科・眼科医師

目次


❷・❸
**平成28年　新年を迎えて**
院　長　河野　陽一
事務局長　堤　圭介
看護部長　青田　孝子

❹・❺
**診療科のご案内**
**＜脳神経外科＞**
脳神経外科部長　三枝　敬史
脳神経外科副部長　伊藤　誠朗
**＜神経内科＞**
神経内科部長　平賀　陽之
神経内科医　小出　恭輔
**＜眼科＞**
眼科部長　髙綱　陽子
眼科副部長　水鳥川　俊夫

❻
**認知症疾患医療センター開設について**
リハビリテーション科部長　小沢　義典
**ろうさい Mini News**

❼
**連携登録医のご紹介**
こいで脳神経外科クリニック

❽
**当院の理念**
**リハビリ美術館**


発行責任者／河野陽一　　発　行／千葉労災病院　http://www.chibah.rofuku.go.jp
〒290-0003　千葉県市原市辰巳台東2丁目16番地
TEL.0436-74 -1111　FAX.0436-74-1151

# 平成28年　新年を迎えて

院長 河野（こうの） 陽一（よういち）

## 安心で質の高い医療の提供

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、ここ数年来続いていた病院の工事が一段落し、患者の皆様方に落ちついて診療を受けていただける環境が整いました。千葉ろうさい病院は、建物を新しくするだけではなく、患者の方々に高度で、そして安心のできる医療を提供するために集中治療室（ICU）や手術室を整備し、最新の医療機器を新たに数多く導入しました。

また、地域医療における本院の役割を重視し、診療の紹介、受け入れ、予約等を円滑にすすめるために、患者の方々と近隣の医療機関との窓口になる地域医療連携部の担当者を増やし、地域との連携機能の充実を図っています。

昨今、社会の高齢化が進む中で医療体制の見直しが行われていますが、市原市と千葉市など周辺地域の急性期および慢性期の医療体制は十分ではありません。今年も千葉ろうさい病院は、地域の中核病院として近隣の医療機関とも協力し、市原市および周辺の地域の医療に全力で取り組んで参ります。

本年も皆様方からの変わらぬご支援をお願い申し上げますとともに、平成28年が佳い年であることを祈念して新年の挨拶とさせていただきます。

事務局長
堤（つつみ）　圭介（けいすけ）

昨年は、皆様の温かい御支援と御協力により開院 50 周年を迎え、記念式典・祝賀会では御多忙の中、多数御出席を賜り改めて厚く御礼申し上げます。また、記念すべき節目の年に増改築工事も無事竣工し新生千葉ろうさい病院として再スタートを切ることができましたことは、私たちにとって二重の喜びであるとともに、これからも地域の皆様に信頼される病院として日々精進していく覚悟を再認識する機会でもありました。

本年は、2025 年問題を踏まえた医療制度改革において診療報酬改定が予定されています。急速に進展する高齢化の中で、医療費の動向は在宅や介護にシフトし、高度急性期を担う当院にとって厳しい内容となることが予想されます。

こうした状況の中、労災病院としての政策医療である勤労者医療の一層の推進を図るとともに、行政をはじめ大学関係、医師会関係の皆様と連携し、地域の医療ニーズにしっかりと対応し、今後も中核的医療機関としての役割を果たすために職員一同努力していく所存でおりますので、引き続き皆様の御支援・御鞭撻を賜りますよう御願い申し上げます。

近年、「病院完結型医療」から地域で安心して暮らせるための「地域完結型医療」という医療・介護連携の構築が求められ、当院でも様々な取り組みをおこなっています。これから療養は、医療機関から暮らしの場へと移行が進む中、「どのような健康状態であっても自分らしい生活を送りたい」という、人々の価値を実現する重要な場になります。そして人生をよりよくするため、いかに支援するかが看護の腕の見せ所です。昨年より「患者さんが地域に戻っても、その人の望む生活ができるようにするために、“退院支援・在宅療養移行支援を院内に定着させる」を意識したシステム作りを実践してきました。看護職は医療の提供とともに、人々の「生活の質」を高める機能を強化する必要があり、今後ますます看護師が自律的に判断する機会が増え、患者さんの退院後はどこでどのように生活していきたいのか、その自己決定への支援が重要であります。入院時あるいはもっと早い段階から「患者に寄り添う看護」を実践するため、病気のわかっている職種である看護師が、多職種と協働しながら今まで以上に専門性を発揮していきたいと考えています。今後ともご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

看護部長
青田（あおた）　孝子（たかこ）

# 診療科のご案内

## 安心してください!

脳神経外科部長
三枝 敬史
さえぐさ たかし

脳神経外科も外科ですから当然手術をしますが、別に片端から頭を開けまくっている訳ではありません。好んで開けてもらいたがる患者さんもいないでしょう。幸い脳神経外科の治療も日進月歩で、昔であれば開頭術しかなかった疾患でも、血管内治療、定位放射線治療、内視鏡手術といった治療法の開発・進歩により、切らずに治したり、より小さな侵襲で手術ができるようになったりしています。また、開頭術においてもナビゲーションシステムを用いて術中に病変の位置が確認できたり、画像処理技術の進歩により術前に詳細な手術戦略を練れるようになったりで、より精度の高い手術がより安全に行えるようになっています。

とは言え、傷ついた脳が元通りに再生・修復しないのは昔も今も変わっていません。それでも必要な患者さんには手術を受けていただかねばなりません。元気に退院していただくことが目標であることは言うまでもありませんが、不幸な結果に終わっても患者さんやご家族と分かり合える診療を心がけています。

## 神経内科の紹介

神経内科部長
平賀 陽之
ひらが あきゆき

神経内科とはあまりなじみがないかもしれません。神経系と筋肉の疾患の中で内科的な疾患を診療対象にしています。入院で最も頻度が高い疾患は脳梗塞です。私が学生の頃(1990年代)は実習先の病院の先生から「神経内科は治らないよ」と言われてしまいました。この頃は神経内科医は診断だけをして治療ができないと思われていたようです。しかしこの10年間をみても神経疾患の診断・治療の進歩は著しく,例えば超急性期脳梗塞における血栓溶解療法が代表としてあげられます。いまだ神経内科の疾患では治療が確立していない疾患も数多くありますが,「治せる」ないし「症状を改善させる」神経内科を目指していきます。また治療は正確な診断があってのものです。しかし神経内科疾患は単純に検査をすれば診断がつくというものばかりではなく検査では全く異常がでない疾患もあります。そのため患者さんのお話しをよくお聞きし,丁寧な診察を行い診断につなげていくことが重要です。日々進歩する医療に遅れることなく診療の質を高めるために学会・論文発表をはじめとした学術活動にも力を入れて自己研鑽に励んでいます。

神経内科スタッフ一同,患者さんがより良い医療を受けられるように努力してまいりますので宜しくお願いします。

## 眼科外来診療について

眼科部長
高綱 陽子
たかつな ようこ

眼科外来では、3名の常勤医師により、眼科診療全般にわたり、良質で高水準な医療の提供を目指しております。特に糖尿病網膜症では、通常のマルチカラーレーザーに加え、パターンスキャンレーザー、マイクロパルスレーザーもあり、病状に合わせて、機種を選択します。黄斑浮腫に対するVEGF阻害薬は、認可と同時にいち早く開始し、レーザーとの組み合わせも行い、大変良好な結果を得ています。緑内障については、視野検査と光干渉断層計による早期診断をまたぶどう膜炎については的確な原因診断とともに、ステロイドパルス療法への対応、神経眼科領域にも積極的に取り組んでいます。

眼科では、生命にかかわる疾患はきわめてまれと思われておりますが、二重に見える、視野が狭いなどの眼の症状から、重篤な全身のご病気の診断がつく場合もあります。私たちは、患者さんの訴えをよく聴いて、状況に応じて、脳神経外科や神経内科の先生方と連携して、的確な診断に結びつくように対応したいと思います。

# 脳神経外科

## 「一朝」のために

手術が必要な患者さんとしては、できれば「達人」に手術してもらいたいでしょう。残念ながら脳神経外科領域において「達人」と呼ばれる医者は滅多にいません。私も脳神経外科医として20年以上医療に携わってきましたが、未だその境地は程遠いと感じております。しかし、現在「達人」と呼ばれる先生方も多くの苦悩と経験、それらを一つ一つ丁寧に積み重ねてきた結果、「達人」と呼ばれるようになったのです。

幸いなことに、現在私は上司に恵まれ、しばしば色々な所に勉強に行かせていただいております。詳細な解剖を学ぶための国内外のワークショップへの参加、「神の手」「匠の手」と称されるような先生方をはじめ「達人」と呼ばれる先生方の手術見学、自室の卓上での日々の顕微鏡手術トレーニングetc、生意気ではありますが、日々昨日までの自分とは違う自分になろうとしているつもりです。もしかしたら、その技術や知識は殆ど生かされないで終わるかもしれません。しかし、準備無くして本番は迎えられないのです。いつ何時、どのような患者さんに出会っても良いように常に準備する。「兵を養うこと千日、用は一朝に在り」(水滸伝)、それが脳神経外科医として生きる自分に課せられた使命と心得ます。

脳神経外科副部長
伊藤 誠朗
いとう せいろう

# 神経内科

## 神経内科の診療

当科は救急領域では主に虚血性脳血管障害の患者さんの診療に携わっています。外来では頭痛・めまい・しびれ・ふるえ・運動障害・認知症など幅広い症状の診療を行っています。特に頭痛・めまい・しびれは誰もが経験するような症状ですが、その症状が長期間治らず、原因がわからずに困っている方が多いと思われます。私はそのような症状の原因を特定し解決するために、受診された皆様から日常生活で困っていることを具体的にお聞きしながら診察することを日々心がけています。症状が改善した時はまるで自分のことのように本当に嬉しく思います。しかし、頭痛・めまい・しびれなどの神経症状の多くは、医療が進歩した現代においても原因がわからないことも多く、原因がはっきりわかるまでに時間を要することも多く経験します。長く付き合っていかなければならない症状をいかに改善していくか私達神経内科医の今後の課題でもありますが、少しでも受診された皆様のお力になれるように日々努力してまいります。

神経内科医
小出 恭輔
こいで きょうすけ

# 眼科

## 眼科入院診療について

入院の眼科診療設備は4階西病棟にあります。大学病院を例外として、一般的に市中病院の眼科は外来診療が中心で、入院で対応する疾患の種類は多くはありません。そのほとんどは白内障の手術に関わるものです。基本的に局所麻酔で可能ですので、最近では健康な方や比較的若年者では、日帰り手術が主流になりつつあります。しかし全身麻酔を要する場合や、高齢者、慢性疾患をお持ちの方は、手術を安全に施行するために、入院の上、全身状況に対処できる体制を整える事が肝要と思われます。当院では手術の前日に入院し、全身状況の把握と手術後の生活の注意や点眼の説明などを行い、手術の翌日に退院の予定です。その他、頻度は少ないものの、外来通院つまり点眼治療だけでは充分に治療できない疾患、例えば細菌の感染症、炎症性疾患などは点滴治療を必要としますし、白内障以外の比較的侵襲の大きな手術(斜視、外傷など)も入院して行います。

眼科副部長
水鳥川 俊夫
みどりかわ としお

# 認知症疾患医療センター開設について

## 「もの忘れ外来」は認知症疾患医療センターの指定を受けました。

リハビリテーション科部長
**小沢 義典**
おざわ　よしのり

リハビリテーション科では初期認知症の鑑別診断を行う「もの忘れ外来」を行っており、かれこれ10年間の実績となりました。御紹介いただいた患者さんについて認知症の鑑別診断と治療の導入を行っています。認知症の多くはアルツハイマー型認知症ですが、中には診断の難しい認知症もあります。もの忘れ外来では、問診・診察に加えて、神経心理学的検査・血液検査・脳MRI・脳血流SPECT検査等の各種検査を参考にして鑑別を行っています。認知症には残念ながら特効薬は有りませんが適切な薬剤治療を選択することは重要です。本人と家族への指導や介護との連携にも力を入れています。

また、認知症の方が生活しやすい社会を目指して地域での連携が必要と考え、市内の認知症に関わる多職種の連携組織である市原市認知症対策連絡協議会の運営にも参画しています。

この度、市原鶴岡病院と連携し、千葉県より1月中には認知症疾患医療センターの指定を受ける予定です。市原医療圏に於いて認知症の診断や連携・教育の中核としての役割を担う事となります。といってもセンター単独でできることは限られます。かかりつけ医の先生方や介護職を始めとして多職種の方々との協働を進めていく所存です。宜しくお願いします。

# クリスマスコンサートを開催しました

## ろうさい mini News

安冨外科部長（志木の森 トロンボーンアンサンブル）

髙綱眼科部長と小沢リハビリテーション科部長

12月16日夕方、外来のホスピタルストリートにて、クリスマスコンサートが開催されました。出演は、安冨外科部長（トロンボーン）、髙綱眼科部長（ピアノ）、小沢リハビリテーション科部長（バイオリン）に加え、最後はピアニスト近藤和花さんです。多くの患者さんが参加されました。音楽を聴いて、少しでも心の癒しとなり、少しでも早く回復していただければと願っております。

ピアニスト近藤和花さん

# 連携登録医のご紹介

## こいで脳神経外科クリニック

院　長
小出（こいで） 貢二（こうじ） 先生

開業して早いもので20年になります。開業前は帝京大学ちば総合医療センターに8年間在籍しておりました。脳神経外科での開業には不安もありましたが、5年間アルバイトさせていただいた清水脳神経外科のスタイルを踏襲いたしました。脳神経外科は脳外科と神経外科（脊髄および末梢神経外科）からなり、欧米では頚椎や腰椎疾患の手術（たとえば椎間板ヘルニア）は脳神経外科医が行います。また、かつては神経内科医が少なく、脳神経外科医が神経内科疾患を診察する機会が多々ありました。そんな訳で脳神経外科の守備範囲は整形外科疾患や神経内科疾患の一部を含み、脳卒中（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血）、頭部外傷、脳腫瘍、四肢のしびれ、頭痛、めまい、てんかん、認知症等になります。脳卒中や神経難病など入院が必要な疾患は、基本的には患者さんの住居に一番近い病院に紹介させていただいておりますが、一番多くお願いしているのが（特に脳梗塞）千葉ろうさい病院です。理由は、時間外でも断らずに診てくださるなど対応が素晴らしいためで、この姿勢にはいつも感謝しております。千葉ろうさい病院の今後の益々のご発展と活躍に期待してやみません。

## こいで脳神経外科クリニック　診療案内

〒299-0102　市原市青柳2036-1
電話番号 **0436-21-2960**

**診療科目**　脳神経外科・内科・整形外科・神経内科・リハビリテーション科

| 診療時間 | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 | 8:00～12:00 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 休 |
| 午後 | 14:30～18:30 | ○ | ○ | ○ | 休 | ○ | ◎ | 休 |

◎土曜はPM14:30～17:30までの診療となります　【休診日】木曜日午後・日曜日・祝祭日・第2・4土曜日午後

# 千葉ろうさい病院 理念

## 基本理念

私たちは、地域の人々、勤労者の方々に
高度で安全な医療を提供します。

## 基本方針

1. 患者の権利を尊重し、安全で質の高い医療を提供します。
2. 急性期医療・予防医療を担い、基幹病院として
   地域医療に貢献します。
3. 働く人々の健康を守り、社会復帰を支援します。
4. 豊かな人間性と高い技能を備えた医療人の育成をはかります。
5. 明るく向上心に満ちた職場をつくります。

## リハビリ美術館

「書道」

作／村田茂男さん

## 編集後記

新年を迎え、2月には、病院機能評価受審となり、職員一丸となった大イベントから始まります。外部評価を追い風にして、実際に行っていることの評価を受け、より質の高い医療を目指すチャンスとなるのではないでしょうか。

昨年で病院増改築工事がすべて終了し、新しい年がさらなる躍動の年になることと思います。そして、この広報誌が皆様にとって、読みやすく役立つ情報となるよう委員会で取り組んでいきます。

長沼　民子（看護部）